令和8年第1回総合教育会議　会議録

1 開催日時　　令和8年8月31日（月） 午後4時～午後5時47分

2 場　所　　木島平村役場 議員控室

3 出　席

村　　長	日臺 正博
教 育 長	関　孝志
教育長職務代理者	宮下　宏
委　　員	芳川 文子
委　　員	梅嵜 舞子
~~委　　員~~	~~土屋 博昭~~（欠席）

4 出席した事務局職員

子育て支援課長	芳川 秀人
生 涯 学 習 課 長	小林 正俊
子育て支援係長	宮島　豊
生 涯 学 習 係 長	武田 幸一

1 開　　会　午後4時00分

（芳川子育て支援課長）

ただいまから、令和8年第1回総合教育会議を開会いたします。はじめに日臺村長から挨拶をお願いいたします。

2 村長あいさつ

（日臺村長）

ご苦労様です。今回は前回の会議を受けて、小中学校の今後のあり方について8月の広報で検討を始めているということでお知らせしているわけですが、皆様方からいろいろご意見をいただいて、大きなモデルですので慎重に進めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 協議事項

(1)村民への情報発信について

① 8月広報に掲載した村民への情報発信

② 村民へのアンケート実施

（関教育長）
資料説明をします。1ページ目にありますのは8月の広報の掲載記事です。村民向けに、これからの子どもたちの最良の教育環境を考え始めました、ということに触れました。2ページ目ですが、いつ広報に掲載するか決めていかなければいけないのですが、これからの木島平村の教育を一緒に考えましょう、というキャッチフレーズで第2弾の掲載内容案です。
今回は第2弾のアンケートを用意しましたので、何月頃に行い、集約できれば良いかを検討していただきたい。
アンケート結果を受けて動き出すという形になると思いますが、いかがですか。
（日臺村長）
何かご意見がありましたらお願します。
アンケートをいつやるかは、まだ決まっていません。小中学校の統合・再編に向けてといきなり出てきていますが、まず初めに、教育委員会では小学校、中学校の統合について検討しています。そして、統合する方が良いか統合しない方が良いという内容もアンケートに入れて、皆さんの意見を聞いた方が良いと思います。
（関教育長）
統合や再編を検討するにあたり、設問6の内容については修正を行います。
（日臺村長）
アンケート実施後については、まだ先の検討内容です。
（教育委員）
ここに令和19年には約90人という数字が出てきますが、90人という数字をどのように受け止めるかということで、現在の人数を示した方が、人数の変化が見え、より理解できると思います。
（日臺村長）
アンケートは記名式ではないため、1人で複数回、回答できてしまう心配があるが。
（宮島子育て支援係長）
スマートフォンでの回答の場合は、送信アドレスが同一の場合は重複していれば分かります。
（関教育長）
集計するのは大変ですか。
（宮島子育て支援係長）
集計は問題ないと思います。
（関教育長）
スマートフォンでの回答が難しい方用に、紙面でのアンケート用紙を用意して役場の窓口で配布したい。1人で何回も回答することは無いようにしていきたい。
（教育委員）
設問の中で、学校の統合や再編と書かれている。再編というのはどういうことなのか。
（関教育長）
学校だけの統合ではなく施設としての枠組みを変える、学校自体の再編のイメージがいろいろあるので再編という言葉を入れました。
（日臺村長）
アンケートを読んだ人に、その内容が通じるか分からないが？

（教育委員）
　統合というと、一般的には小学校なら小学校同士でというイメージがある。本村では小・中の統合という意味を私たちは持っている。近隣市町村との統合ということは考えていないと思いますが、どのように捉えられるかを考えると、統合の説明とか、再編とかの説明が必要ではないか。それぞれが存続、小学校は小学校、中学校は中学校でやっていくとか、いろいろな捉え方はあるような気がします。
（関教育長）
　令和3年の学校施設の長寿命化計画では、小中学校の統合としています。
（教育委員）
　そういう前提があるのですね。
（教育委員）
　それを、村民の皆さんが認識しているかどうか。
（日臺村長）
　一般の人、村民は知らない。
（関教育長）
　いきなり統合ありきということは、このアンケートでは出せないので、今回いただいた意見をアンケートに反映させ、設問内容も検討します。次回にお示しいたします。
（日臺村長）
　アンケートを、いつ頃やるかは決めなくてはいけない。
（関教育長）
　10月の総合教育会議で、もう一度アンケート内容を確認していただき、11月の広報で出していく。最短で11月広報に掲載するようにしたい。
（日臺村長）
　アンケート期間も、少なくとも1か月以上は必要になる。
（関教育長）
　11月15日から1月中旬までをアンケート期間として、2月の総合教育会議で内容を検討する、というスケジュールでどうでしょうか。

（2）小・中学校統合に向けて
① 【タイプ】小・中学校施設一体型＋義務教育学校
② 【開　校】令和17年度4月開校
③ 【複合化】小・中学校の学校施設＋複合施設

（関教育長）
【タイプ】【開校】【複合化】について、資料説明を行う。
　全国的な流れとしては、施設一体型の義務教育学校が主流で、本村の場合もそれがベストだと思います。この会では、方向性を決めていただければと思います。
（日臺村長）
　義務教育型はどういうメリットがあるのか。
（関教育長）
　義務教育学校は、1年生から9年生となります。小学校6年生から中学校1年生に上がる際の不安がな

くなります。また1年生から9年生まで一貫して指導ができます。
中学校の先生が小学校の子どもたちにも教えたりと、相互の乗り入れができ柔軟な教育課程の導入ができるようになります。
小学校4年生までを前期、5年生から中学1年生までを中期、中学2・3年生を後期として、1年生から9年生という組織でやっていくことになります。職員室は1つになりますので、先生方も小学校の子どもたち、中学校の子どもたち両方を見ることになります。先生方は、小学校と中学校の両方の免許を持った先生が配置されます。
小学1年生も中学3年生の担任の先生の顔がわかるということで、すごく安心できる環境ができると思います。

（教育委員）

お聞きすると、山ノ内町も義務教育学校を目指すというお話ですが、同じ立場であれば、内々の情報を共有し合えれば良いと思います。

（日臺村長）

山ノ内町は、いつ頃に義務教育学校を目指しているのか。

（関教育長）

令和12年4月に義務教育学校を目指しているとのことです。

（教育委員）

木島平村より、ずっと早いですよね。

（日臺村長）

校舎は一体型が良いと思う。

（関教育長）

本村は小中1校なので、統合するのであれば小学校と中学校を分けるのではなく、施設一体型の義務教育学校が良いかと思います。

（教育委員）

義務教育学校になったときに、例えば中学校は生徒会、小学校は児童会と言っていますが、そういうのはどうなるのか、中学校は文化祭をやっている。小学校は運動会や音楽会をやっている。そういうのは義務教育学校になったときは、どういうふうにやっていくのですか。

（関教育長）

一緒にやっていきます。信濃町の小中学校がやっていたのを拝見すると、行事等は一緒に行い、小学生がお兄ちゃん、お姉ちゃんの姿を見て憧れを持ったりして、意識が高くなると言われています。

（教育委員）

以前、併設校にいたことがあって運動会は一緒でした。組体操では中学生のがっちりした子が土台となっていて、小学校だけではできないような技を披露するとか。児童会、子ども会など、中学生の子どもたちは、中学生に関わるような行事の内容については、中学生だけの部会みたいなものを開いていました。また全校に関わるようなものは、小学校の4年生以上を交えて中学生が小学生に分かりやすく説明していました。小さい子どもたちへの配慮を考えた行事を組んでいくとか、異年齢集団の良さというのが、そういったところにも出ていて、非常に私は良かったなと思いました。

（関教育長）

それが一番のメリットですね。

（教育委員）

もっと言えば、異年齢集団で学び合うということも可能なので、本村では学びの共同体という形をとっていますけど、年齢を超えて何か活動を作っていく、そういう時には、中学生は中学生としての立場で、小学生ならではの発想や要望というものを、それを擦り合わせていく。ひとつのコミュニティ、社会集団的な異年齢の中での成り立ちがあるのではないかと期待できます。

（関教育長）

今後、視察に行って実施校を見ていく必要があると思います。

（教育委員）

いま、県の教育委員を務めている藤原さとさんとか、こたえのない学校を立ち上げてやっていますけれども、そういったところとか山梨の南アルプスにある、文科省の指定を受けている南アルプス市の小中一貫義務教育学校では、いろいろなカリキュラムを自分たちが独自で作っています。

入学式や卒業式の行事を一切生徒会で運営していくなど、今までの学校の発想、こうあるべきだという発想を柔軟に打ち砕いていく。子どもたち自らが学校生活を作り上げていく形も考えられるので、私は非常に期待しています。

（関教育長）

学校の教育課程は決まっているのですが、義務教育学校は自分たちで変えられます。申請を行い自由に変えていける。教育課程の編成のところで検討していき、この村らしいものを作っていけることで特色あるものになっていく。

（教育委員）

中学校の制服とかは、どういう風になるのだろう。

（関教育長）

学校名なども、これからだと思います。

（教育委員）

信濃町小中学校でも制服のことを検討してました。最初は生徒たちが、そんな堅苦しい制服に縛られるのは嫌だと意見を出していたんですが、徐々に、そうは言っても親に負担かけると、年に3回ぐらいの儀式的な行事にしか着ないのだから、普段は運動服で通学できるので、結局は良いのではないかというところに落ち着いたという。生徒自身が課題を持って、生徒自身がそれを納得していくという、そんな議論があったようです。

（関教育長）

ことが進めば、いろんな心配事が出てくると思います。

（日墓村長）

いずれにしても、村の皆さんに公表していくには、小中一貫とどこが違うのか、どういうメリットがあるのか、しっかり分かるようにしていかないといけない。

（教育委員）

村民はイメージを持ちにくいのではないか。

（関教育長）

今の段階では持てないと思います。義務教育学校だといろんなカリキュラムができますが、年配の方たちの「学校ってこういうものだ」という学校イメージ、それもまた違ってくると思います。

（日墓村長）

義務教育学校になれば、本来だったら中学校の先生が小学生には、なかなか直接関われないことが、

小学生の面倒を見られるということになる。校長がいて、先生も中学校の先生と小学校の先生が分かれていれば、なかなか直に、ああいう風にしよう、こう風にしようということができないけど、義務教育学校になれば一体的に関わりが生まれる。

（教育委員）

菅平は小中一体型ですよね。職員室は一緒でしたよね。

私、そこへ一週間ぐらい教育実習か何かで行って、一緒に授業をやらせていただいたことがあり、非常に小中の仲が良くて、先生たち同士の、情報も共有できるので、非常に良い職場環境だという思いがありました。

（関教育長）

そうであれば、施設一体型の義務教育学校について、2月以降の広報であるとか、ふう太ネットなどでメリットを発信していく必要がありますか。アンケート集計後の2月以降には、その段階では方向性は決めておくことが必要ですね。

この資料では、選択は、施設一体型、義務教育学校を志向したときについての内容です。（2）の説明は以上です。

（日臺村長）

そのほか、複合施設については、後で考えるということで、よろしいですね。

（関教育長）

分かりました。

（日臺村長）

それでは、（3）令和17年度開校に向けたスケジュール等について、をお願いします。

（関教育長）

前回の資料を修正し、開校を17年度としています。17年度にしたのは19年度では100人を割ってきます。17年度は114人という人数になります。19年の状況になる前にということで、17年を開校とするという資料で説明いたします。【資料説明】

（日臺村長）

合意形成に2年間かけるのは仕方ない。前にも話したが図書館だけではなくコンビニとかも欲しい。

（教育委員）

実際に東京にあるのだそうです。

（日臺村長）

コンビニは災害対応にもなる。

（関教育長）

朝日村は役場の横がコンビニになっています。阿智村は役場の中に図書館があって、その横が生涯学習課の事務所になっている。その村独自のものがいろいろあります。

図書館がある若者センターの建物も老朽化が進んでいます。村営図書館だというが、ちっちゃな図書館と呼ばれている。そういう施設を取り込んでいくと村の活性化につながっていくのではないか。

（日臺村長）

若者センターも昭和58年に建てた施設だ。

（教育委員）

そこのところは良いと思います。

（関教育長）
　現段階では、令和17年に開校ということで進めてよろしいでしょうか。
（日臺村長）
　令和17年は目標ということで！
（教育委員）
　議会の質問で出ている中で、どこまで私たちが情報の取り扱いを遵守しなければいけないのか、公表していける部分と、そこをはっきりしておかなければならない。
（関教育長）
　窓口は、村長と教育長の方にお任せしてもらえればと思います。
（教育委員）
　私たちは、いま検討しているようだがという感じで、直接具体的なことは話せません。
（関教育長）
　広報に令和19年で出していますが、19年度には100人を割り込んでくる。19年を前倒していきたいとの話はしていきたいと思っています。
（日臺村長）
　正直言って19年というのも根拠があったわけではない。もともと村の総合振興計画が10年計画で、19年というのは第8期のものだが、それを第7期の振興計画が8年に変えたから。もともと10年ごとに計画の中での話しで、次期の計画に小中学校の改築を入れるということだったので、19年というのは第8次の中の計画に入れるという前提で19年になった。それが、第7期が実施計画は8年になったから必然的に次期の計画というと17年になり、第8次の計画の1年目になる。
（教育委員）
　2年短くなったのですか。
（日臺村長）
　そうです。
（関教育長）
　10年ではスパンが長すぎるということでご理解いただきたい。
（日臺村長）
　振興計画も見直しを行わなければならない。当然、その前に改築というか建設が入ってくる。第7期、今の計画の後期の4年間に入ってくる。
（関教育長）
　第8期の1年目、2年目で工事という風になってくることになります。
　私からは以上です。
（日臺村長）
　第8期の1年目、2年目で工事に入ることを前提で検討していく。
（日臺村長）
　これは、どこまで公表していくのか。この会議（の内容）。
（関教育長）
　今回アンケートを取る中で、その集計において、方向性として示していくことがよいと思います。
（教育委員）
　アンケートを取ったら、その先のスケジュールがありましたよね、その後のアンケートの扱いみたいな

ものについては、アンケートをとる以上は示していく必要があるのではないかと思います。
（関教育長）
間に合えば2月広報で（2月の総合教育会議は19日）、3月の広報に載せるとしたら令和9年の4月1日からの動き出しが、遅くなってしまう。
（教育委員）
広報が出るタイミングとか議会のタイミングも考慮しながらタイムテーブルを考えていく必要があると思います。この総合教育会議ではどういった検討事項が出てくるか、その辺りがもう少し具体的になるといいのかなと思います。
（日臺村長）
いずれにしても、令和9年から構想の段階に入るとなると、いま令和19年に計画が入っているが、それを前倒しした方が良いのではないかという話をしているということを公表しておかないといけない。
（関教育長）
そうですね。議会一般質問の中で話すようにいたします。
（日臺村長）
少なくとも、この総合教育会議の中で、19年ではなくて、前倒ししないと児童生徒数の減少もあるので、前倒しした方が良いのではないかという議論をしているという風に言っておかないと、令和9年に動き出せない。
（関教育長）
2月広報に載せたいですね。アンケート集計と同時に。
（日臺村長）
タイミングを計らないと、どうして検討委員会を、令和9年から作るのだという話になってしまう。早すぎるのではないかという意見が出てくる。
その他、何かありましたら。いいですか。
（日臺村長）
その他、何かありましたらお願いします。
よろしいですか。
（意見なし）